

ウイルス性急性結膜炎の種類と症状

① はやり目（流行性角結膜炎）

アデノウイルス8型・4型・37型・19型の感染で瞼の裏側のブツブツや充血、瞼の腫れ、流涙などの症状が激しく現れます。また、まぶしさも感じる場合があります。感染から7日から14日で発病します。

② プール熱（咽頭結膜熱）

アデノウイルス4型・3型によって感染します。プールで感染することもあり、プール熱とも呼ばれます。結膜にブツブツができて、咽頭炎による発熱を起こします。感染してから5日から7日で発病します。数週間、便の中にウイルスがでています。結膜炎が治ってもすぐにプールの許可がないのは、このためです。

③ 急性出血性結膜炎

エンテロウイルス70型によって感染します。感染してから1日から2日後に突然眼球結膜に出血を起こします。ゴロゴロ感や、充血、まぶしさなどが現れ、結膜にブツブツができます。アデノウイルスによる結膜炎と同じような症状で、1週間くらいで治ります。

ウイルス性急性結膜炎の治療方法

この病気に有効な特効薬はありません。ウイルスに対する抵抗力をつけるために休息を十分に取って体力を落とさないことが必要です。また、補助的に他の感染を起こさないようにために抗菌点眼薬や、炎症を抑えるためのステロイド点眼薬などを使用します。ウイルス性結膜炎は片方の目から症状がでます。その時期には症状のある目だけに点眼してください。もう一方の目は、症状がでるのが遅いほど軽くすみますが、両眼に点眼すると点眼薬の容器から感染することがあるからです。他の人にも移さないように十分に注意しましょう。症状は、ウイルスに対する体の抵抗力がいつてくるにつれてしだいに治まり、約3週間〜1ヵ月ほどで完治します。

後遺症と合併症への注意

結膜炎の症状が治まってきたころに、黒目に（角膜）の表面に小さな点状の濁りが出てくる場合があります。濁りがでると、まぶしさやかすみを感じたりします。自然に消えることが多いのですが、重症な場合はステロイド点眼薬を使用すると効果があります。このときに治療をやめると、黒目が濁って視力が落ちてくる場合がありますので、治ってきたかなと思っても、医師のいいと言うまでは点眼などの治療を続けるようにしましょう。



プールでは気を付けよう！

- ・目が充血していて、目やにが出る日はプールに入らない
- ・長時間泳ぐときは水中メガネなどを使用する
- ・泳いだ後、目が充血していてもあわてず様子を見る
- ・ウイルス性結膜炎でないことも多い
- ・薬の変質、汚染の恐れがあるためプールサイドに点眼薬を持って行かない

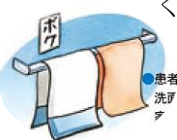
感染予防対策6箇条！

- ① 手を流水やせっけんできよく洗う
- ② 休養を取って体力を落とさない
- ③ 学校・幼稚園・保育園は医師の許可があるまで休む
- ④ 人混みへ出かけない
- ⑤ 医師の許可があるまでプールに入らない
- ⑥ 患者のタオル、洗面用具などは家族のものとは別にする



ウイルス性結膜炎は伝染力が高く

家族や友人にも移りやすいので、ウイルス性結膜炎と診断されたら速やかに自宅療養しましょう。



せきやくしやみなどの飛沫感染や接触感染で感染します。お風呂でも感染しますので順番は最後にするなど、家庭内感染を防ぎましょう。市販の手指消毒用アルコールでは効果が低いので感染予防をこまめに心がけましょう。